

防 除 情 報

長崎県病害虫防除所長

平成30年度病害虫発生予察防除情報第16号

たまねぎ ベと病の防除対策について

県内の早生たまねぎでべと病の一次伝染株が確認されました。昨年多発した圃場では、今年も多発することが予想され、今後の気象条件によってはその他の圃場でも多発する可能性があります。発病株は伝染源となりますので、抜き取り処分の徹底等、下記に留意して防除指導をお願いします。

記

1. 発生状況等

- (1) 1月前期の巡回調査(12筆)の結果、発生を認めなかった(平年発生を認めない)。また、県予察圃においても発生を認めなかった。
- (2) 1月7日の臨機調査(諫早市定点:13筆)の結果、発生を認めなかったが、1圃場から生育の劣る株を持ち帰り、簡易検定(※)を行ったところ、病斑部に孢子が形成された。
※農林技術開発センター2016成果情報「たまねぎべと病越年罹病株判別法」:ポットに移植後ビニール袋に入れて高湿度条件下で一晩静置
- (3) その後の臨機調査の結果、発生圃場率が1月15日(諫早市定点:15筆)は13.3%、22日(諫早市定点:17筆)は29.4%と増加している。なお、発病が確認された圃場の平均発生株率は0.1%、作型はほとんどが早生で(写真1)、生育が比較的進んでいた。

2. 防除対策

- (1) 圃場の見回りをこまめに行い、発病株(一次伝染株)を発見したら早急に抜き取り、圃場外に持ち出して適切に処分する。抜き取った株は圃場内に放置せず、その場で直ちに袋等に入れ、孢子が周囲に飛散しないように留意する。
- (2) 圃場の排水対策を行う(明渠の切り直し等)。
- (3) 薬剤防除は二次伝染に好適な気象条件(気温15℃前後で曇雨天が続く場合)となる前(平年2月下旬頃)を目安に開始するが、実際の防除にあたっては今後の気象情報に注意し、状況に応じて防除を行なう。なお、薬剤耐性発達防止のため、同一系統の薬剤を連用しない。



写真1 一次伝染株(平成31年1月22日撮影)

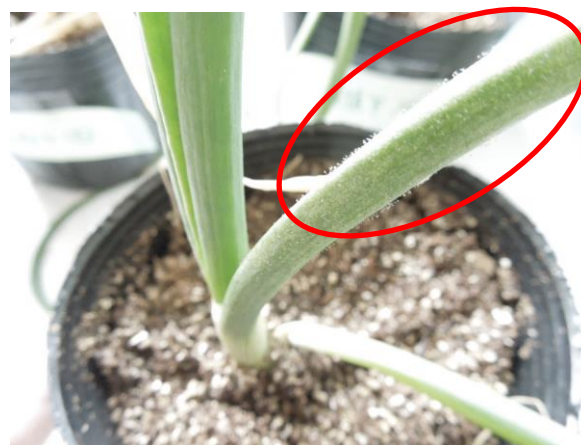


写真2 ポットに移植した一次伝染株(孢子を形成)

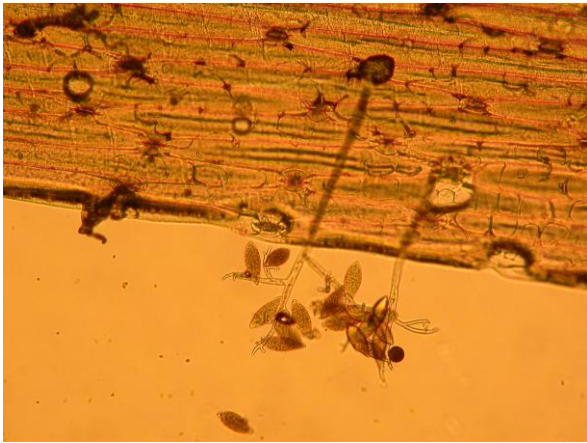


写真3 顕微鏡下での分生子柄と分生胞子

【一次伝染株の特徴】

- 葉身が外側に向かって湾曲している
- 葉色は健全葉と比較して褪せたような色をしている（黄色味を帯びている）
- 周囲の健全株に比べて生育が劣っている
- 気象条件によっては胞子を形成している場合がある

-
- 長崎県病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。
「長崎県病害虫防除所ホームページ」 アドレス：<http://www.jppn.ne.jp/nagasaki/>
- この情報に関するお問い合わせ
長崎県病害虫防除所 TEL：0957-26-0027

